



## 日本人が知らないアメリカの 大学フットボールの人気と規模



北陸銀行 国際部  
ニューヨーク駐在員事務所  
内間 洋子

アメリカの冬のスポーツといえば、毎年ハーフタイムの派手な演出が話題のプロのアメリカンフットボール(NFL)や、アイスホッケー(NHL)、バスケットボール(NBA)などを思い浮かべますが、実はそれらを凌ぐ人気を誇るのが、150年の歴史を持つ大学フットボールです。

全米大学体育協会には、600を超える大学フットボールチームが参加しており、9月初旬から12月初旬までのレギュラーシーズン中の毎週末、全米各地でリーグごとに対抗試合を行います。その後年末年始にかけ、ボウルゲームと呼ばれるプレーオフにて、15人の選考委員により選出された全米トップ12チームによる5種類の決勝戦が行われます。中でも2014年から始まった、トップ4のチームが出場する全米王者決定戦の準決勝及び決勝は、視聴率においてオリンピックや全てのプロスポーツを凌ぐアメリカ最大のイベントになっています。

プロのNFLは全米32チームしかなく、半数の州がチームを持たない中、大学チームは全ての州の大抵の郡や市にあるため地元密着型で、住民、在學生、卒業生が我が事のように熱狂的な声援を送ります。ちょうど日本の高校野球の盛り上がりにも似ています。またシーズン中の各リーグ内での試合数が、大リーグ野球の162試合などと比べ、週末のみの12試合と極端に少ないのも、盛り上がりは一役買っているようです。毎回の試合前には、スタジアム駐車場にてファンが各自の車のトランクを開放し、バーベキューセットやバーテーブルなどを出して前祝いパーティーが開かれます。試合を観ながらのホームパーティーや、試合が観られるバーやレストランも溢れんばかりの大盛況になります。

大学フットボールの歴史は、1920年にプロチームができる遥か以前の1869年まで遡り、ニュージャージー州にあるラトガース大学とプリンストン大学による初試合に始まります。初戦はラトガース大学が勝利しましたが、一週間後には、プリンストン大学がリベンジに成功しました。さらにもう一試合戦う予定でしたが、熱狂した選手や生徒達が学業に身が入らなくなり、大学側により試合中止を言い渡されることになりました。

しかし、その目新しいスポーツと“事件”を聞きつけた近隣にあるコロンビア大学、イエール大学、スティーヴン工科大学、ニューヨーク市立大学などが続々と試合参加に名乗りを上げ、瞬く間に全米に広がりました。

その後、優秀なプレーヤーの囲い込みのため、高額な授業料と生活費、合わせて1,000万円以上を各選手に毎年提供する奨学金制度(卒業後返金の必要なし)を利用し、大躍進する大学チームが台頭するようになりました。これは資金力のある大学が勝利を手にすることを意味します。今年の王者戦を制したミシガン大学の昨シーズンの主な収入は、チケット売り上げ約71億円、寄付45億円、放映権56億円プラスその他で合計197億円、それに対し経費合計は、コーチへの年俸15億3,000万円を含む78億円でした(\$1=150円換算)。

そこで問題となってくるのは、大学側がこれだけの収益を上げ、またコーチ達が破格の年俸を得る中、実際に戦う学生の選手達に殆ど恩恵がないことです。プロではないからと言ってしまえばそれまでですが、このビッグビジネスの状況を考慮すれば、搾取とも取れ、選手達の意欲も失せます。この問題を解決するため、全米大学体育協会は2021年から、全米トップクラスの大学スポーツチームに属し、企業広告などに肖像や名前が使われた選手は、収益の一部を大学を通して受け取れるように規則を改定しました。それにより、現在では年収7,500万円を得る選手も現れるようになりました。

しかしこの場合でも、段違いに利益を上げているフットボールなどのごく一部の種目や人気選手のみが恩恵を受けるだけで不公平だとする批判が噴出しました。そこで現在同協会は、競技種目・男女に関わらず、そのチームが全米トップクラスのグループに属する場合、大学はチームの半数の各選手に、年間一律450万円を支払うこととする案を大学側と調整中とのことです。

一方、選手個人が給与的なものを得るとなると、黙っていないのが、国税庁です。教育、公益目的として免税を認められている寄付をする個人、法人と受け取る寄付団体に対し、寄付金が選手への報酬に充てられるのなら免税措置を撤回するとの警告を出しています。国民的アマチュアスポーツ、大学フットボールのビッグビジネスを巡る、寄付団体、大学と国税庁の場外戦にも注目が集まっています。



<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。  
記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

**ほくりく長城会**

**長城メール**

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp